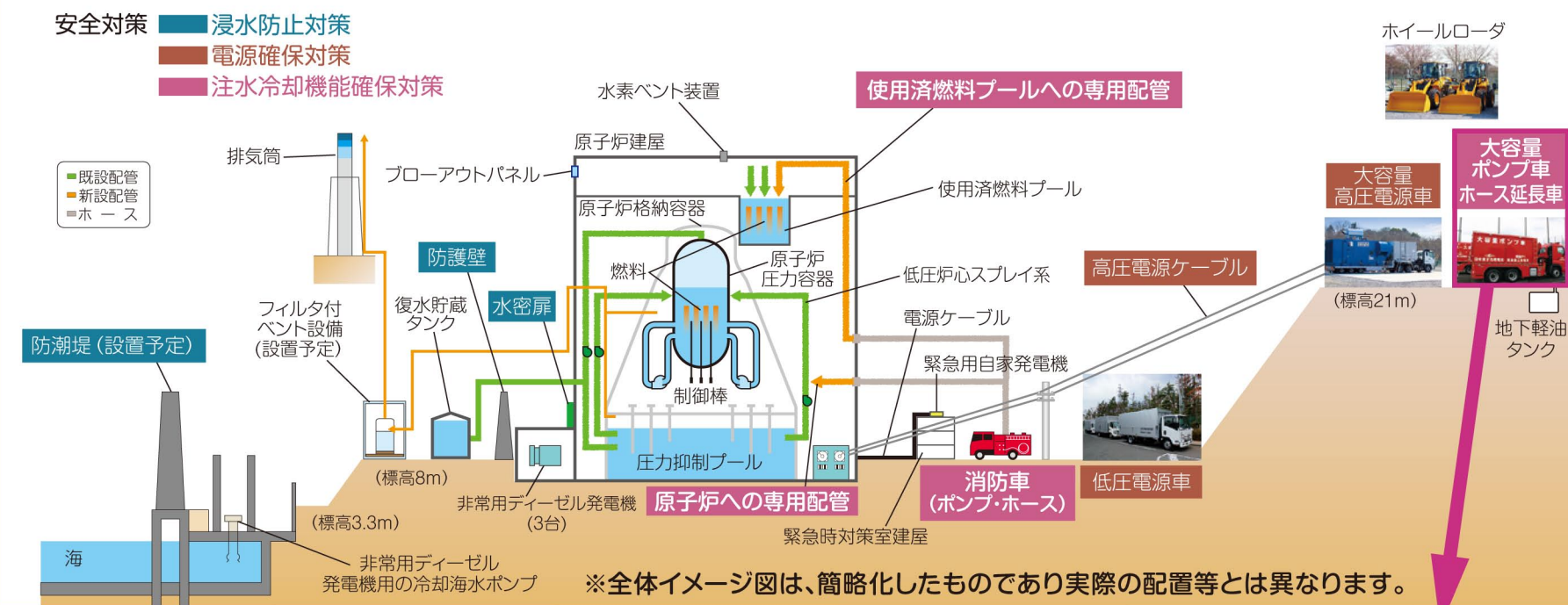


今回は、安全対策のうち「注水冷却機能確保対策」についてお知らせします。

福島第一原子力発電所では、原子炉へ冷却水を供給することができなくなり重大事故となりました。これをうけ、当発電所では、ポンプを回す電源がなくなったとしても、原子炉などに冷却水を供給する手段を様々な状況に対応できるよう既存の設備に加え、大容量ポンプ車などを配備するとともに、屋外から原子炉や使用済燃料プールに直接注水できる専用配管を新たに設置しました。なお、大容量ポンプ車は津波の影響を受けない高台（標高21m）に設置するとともに、これらを使った訓練も繰返し行っています。

注水冷却機能確保のための対策強化

東海第二発電所安全対策全体イメージ図



私たち原電は、東海第二発電所の安全対策に全力で取り組んでいます。

皆様からのご質問にお答えします ～震災後に地域の皆様から寄せられたご質問～

ご質問： 配備した大容量ポンプ車で、原子炉や使用済燃料プールを冷やすことはできるのですか？

回答： 原子炉の冷却機能がすべて使えなくなった場合や、使用済燃料プールを冷却できなくなった場合に備え、大容量ポンプ車・ホース延長車や消防車を配備しました。これらを使い冷却に必要な水や海水を複数のタンクに供給し、その水を既設の配管を通じて原子炉や使用済燃料プールに送ることで、問題なく冷却することができます。

さらに、別の注水ルートとして専用配管を新たに設置し、屋外から直接注水して冷却することができます。なお、大容量ポンプ車等は、長期の連続運転が可能となるよう燃料を備蓄しています。

《 冷却水を供給する手段を複数整備 》 原子炉と使用済燃料プールを問題なく冷やすことが可能

《専用配管の設置（新設）》

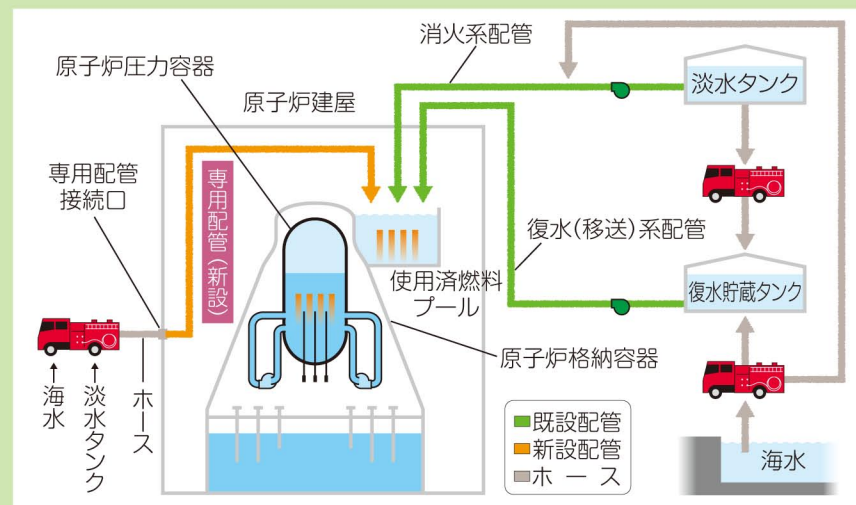
新設した専用配管を使用して大容量ポンプ車や消防車から直接注水が可能



使用済燃料プールへ
給水専用配管接続口



ホースを専用配管に
接続する訓練



使用済燃料プールの場合
（原子炉の冷却についても同様に整備）

《大容量ポンプ車や消防車の配備・活用》

発電所内の複数の淡水タンク等の、水や海水を水源として、使用済燃料プールに注水することが可能



淡水タンク



大容量ポンプ車による
海水汲み上げ訓練

発電所トピックス

各種機器の監視やパトロールを行っています

現場パトロールでは、視覚、聴覚、臭覚、触覚すべてを使って機器の健全性を確認しています。
ポンプの点検（右写真）では、運転音を聞いて異常の有無を確認しています。



発電所の現況

燃料は原子炉から全て取り出され、使用済燃料プールで冷却しています。

東海原子力館（東海テラパーク）のお知らせ

東海テラパークでは、本紙でご紹介した安全対策や訓練の様などを、各種パネルやビデオでご覧いただくことができますので、ぜひお越しください。

展示物のご案内

*地域の方々の作品を展示しています

- 11月27日～12月25日
「クリスマス飾り」
 - 12月26日～平成26年1月14日
「正月飾り／つるし雛」
- ～どなたでもご覧いただけます～



東海テラパーク

所在地 那珂郡東海村白方1-1
電話 029-287-1252
開館時間 9時から16時30分
（年末年始を除き毎日開館）

お問い合わせ先
土日祝日を除く 9時～17時



日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所
東海事務所

茨城県水戸市笠原町978-25
茨城県那珂郡東海村白方1-1

TEL:029-301-1511
TEL:029-287-1250

当社ホームページ
<http://www.japc.co.jp/>